

やりました！9月25日に！「日米地位協定」「ひめゆりの塔」

女流講談 田辺鶴瑛・銀冶の母娘 詳細は南ひやま9条の会(11号)をご覧ください。(裏面)

感謝します！原水爆禁止世界大会への高校生派遣カンパ78,000円に、目標超過！

派遣参加者の報告文は次回たよりに掲載していきますので、もう少しお待ちください。ごめんなさい。



10月1日(土)、熊石で「道退教檜山支部&健康友の会85クラブ」交流パークゴルフ10月例会を開催しました。田村一正さんのお世話で会場を確保していただき、さすが地元の田村さん、年齢を感じさせぬプレーで、当日スコアで福原支部長をしのぎました。詳細は支部だよりをご覧ください。

いよいよ植樹スタート！

荒涼とした被災地に桜を植え安らぎの地に変えたい。故郷釜石が甦るシンボルに桜を植え、未来を託せる資源を残したいと考え、釜石の海辺に出来る公園や防浪のマウンドに桜を植えることを目的としています。

悲慘な記憶の場所は、そのままであれば悲しみや苦しみをそして悲嘆しか残りません。

しかし、そこを安らぎの場所に変えることができれば、多くの市民に安心を与えることができると確信します。また、多数の桜の植樹は、花の満開とともに三陸釜石の新たな名所となり、未来に亘る有望な観光資源となります。

何よりも市民に対し郷土釜石の復興を印象付けることができるものと考えます。

(釜石に桜を植える会 会長 中川 淳)

釜石市が津波避難路として釜石港周辺に整備中の盛り土の緑地帯「グリーンベルト」で22日、桜の植樹作業があった。約100人が参加し、盛岡地裁敷地にある国の天然記念物「石割桜」の種子から育てた苗木など74本を植えた。



市と市民グループ「釜石に桜を植える会」が主催。本格的植樹作業は初めてで、名物の桜がある福島県三春町や岐阜県本巣市から贈られた苗木も植えた。同会は桜並木を東日本大震災からの復興のシンボルとすることを目的に、苗木計3000～5000本を海辺の公園などに植える目標を掲げる。同会理事で釜石観光物産協会の沢田政男会長(68)は「グリーンベルトが市民の命を守りつつ、復興後の憩いの場や観光名所になることを期待したい」と話した。

「河北新報オンラインニュース」より

このたび釜石に桜を植える会より、会報「さくら」が届きました。(前号に掲載済み)

「10月22日は港町グリーンベルト

23日は薬師公園と鶴住居町根浜緑地植樹本数は少ないながらもやっと決まりました。多くの皆様の参加をお願いいたします。」

そして、当日は岩手県の天然記念樹に指定されている石割桜も植樹し、全国各地の代表的な桜も植樹したようです。有名な福島からは「三春の滝桜」、岐阜からは「淡墨桜」、北海道からはエゾヒガンザクラなどが植えられたようです。

道退教檜山支部へも案内が来ましたが、予算もないので断念しました。

北海道新聞社の中川さん(中川会長の子息)の取材を受け、10月23日の朝刊に『全北海道退職教職員の会檜山支部(65名)は会員から寄付を募り、総額約10万円を「桜を植える会」に寄付してきた。事務局長・省略・は震災の年、道・東北の退職教職員の会の集会で訪れた釜石など被災地の光景が目に焼き付いている。「復興には時間がかかる。長い道のりの中で、桜が皆の心のよりどころになってくれたら。花が咲くころ、見に行きたい」と願う。』と、紹介されました。

「教育署名」続々と集まっています。 11月25日までに届けてください。

「11絆募金」に引続きご協力を！

4月の総会にご持参ください。
参加できない場合は預けてください。

平和を語るつどい Part. 9 女流講談母娘寄席

母娘で沖縄を熱く語る

9月25日(日)、南ヶ丘ふれあいセンターで、女流講談師・田辺鶴瑛(母・師匠) & 銀冶(娘・弟子)のお二人が、沖縄の悲惨な過去と理不尽な現在を語ってくれた。

南ひやま9条の会

第11号

2016.10.2発行

【事務局】金子宇彦 江差町南ヶ丘 0139-52-5149

講談・田辺鶴瑛さん

日米地位協定



【「はんかくさいネ！」和やかな中にも舌鋒鋭い鶴瑛師匠】

◆「介護講談」で話題の鶴瑛さんが、「日米地位協定」に真正面から取り組んだ。日米地位協定とは米軍兵士らの特権を保障するもので、沖縄などの米軍基地周辺で起きた数々の事件で、人々を苦しめている元凶なのです。◆鶴瑛さんは、第二次大戦の戦後処理の話から、日本の共産化をおそれるアメリカの姿勢や、安保条約を結んだ吉田茂、安保改定に臨んだ岸信介を取り上げ、日本がアメリカに取り込まれていく過程を鋭く



【大きな笑い声と、「そうだ、そうだ！」とうなずく納得の講談でした】

描く。そして協定の締結にあたり「何も主張しなかつた日本」の無責任さを指摘。さらに普天間基地の県外移転をめぐる外務省の陰謀などにも触れ、米軍の基地問題のウラを明かした。◆時折「べん、べん、べん！」と口三味線を鳴らし、函館弁を巧みに織り交ぜ、聴衆の笑いを誘う語り。ともすれば堅くなりがちな日米地位協定を分かりやすく紐解いてくれた。

講談・田辺銀冶さん

ひめゆりの塔



【関連に、しめやかに「ひめゆりの塔」を熱演する銀冶さん】

◆今回で6度目の檜山訪問となった銀冶さんは、ひめゆり学徒隊の悲劇をドキュメントタッチで描いた「ひめゆりの塔」物語を口演してくれました。◆セーラー服に憧れ県立第一高女に進学した上原キクさんだったが、願いかなわず「全国統一服」を着ることに。昭和19年、敗戦が色濃くなり米軍が沖縄に上陸すると、高女の女学生も「ひめゆり学徒隊」として南風原陸軍病院へ赴く。縦一列の行進隊列の中



【講談を終え、お二人を囲んで記念の集合写真を】

介護講談「バカとは何よ」 鶴瑛さん 二席終了後、急遽介護講談。師匠の実体験から、認知症介護のポイントを。「時によりウソ良し、ごまかし良し」「当人の一番良い時に戻って、話題を合わせ、明るく楽しく一緒に笑い飛ばしちゃえ！」

参加者の感想



【進行は金子事務局幹事】

▼鶴瑛師匠の「日米地位協定」は、中島康亮のスルメ売りのおばあちゃんの声で、様々な疑問に明快に答えてくれた。しかも同じ敗戦国のドイツ、イタリア、さらにお隣の韓国の米軍基地のあり方まで語る。マスコミの安倍首相応援団の「日米地位協定」擁護の理屈が次々とあはかれる。やっぱりこの協定はアメリカ服従の協定なのだと思います。難しい内容を高座にかけた勇氣と心意気にも脱帽。この高座が日本中に広がったら！と思わずにいられない。 ▼銀冶さんのメリハリのある澄んだ声。ひめゆり学徒にわが身を重ねての若々しい高座に感激。よかつた！戦争という「暗い」内容なのに場面が鮮やかに浮かび、涙が出ました。 ▼認知症の話よかつた！当人の歴史を知ると、いいナァー。